

平成 29 年度

全国学力・学習状況調査の 結果について



平成 29 年 12 月
海老名市立有馬小学校

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「算数に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「児童質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 4
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 5



資料 学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起きている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家からは、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【基本的生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが平成25年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました。

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

- 国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒
- ・ 小学校第6学年
 - ・ 中学校第3学年

◆ 調査内容

- (1) 教科に関する調査

【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)

【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

- (2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

- (3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成29年4月18日(火)

海老名市の結果は
こちらから



国語に関する調査結果

国語 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書くことについては、無解答がなく、正答率も高い。
- 俳句の情景について考えたこととして適切なものを選択する問題については、比較的正答率が高い。
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読むことは、比較的できている。

《努力を要する所》

- 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くことに課題がある。無解答も多く見られた。
- 情報を正確に収集する力が不十分である。その情報を関連付けながら話し合う力も、努力を必要としている。

国語 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 書くことの領域で、他を説得するために引用する、効果的な文章を選ぶことは比較的できている。
- 文章の構成の工夫として当てはまるものを選択する問題では、正答率は高くないものの全員解答できている。

《努力を要する所》

- 設問が長く複雑な場合、正答率が低い。問われている内容を的確に読み取ることに課題がある。
- 読むことの領域で、話し合いにおける発言の意図として適切なものを選択する力が不十分である。また、物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめるという設問になると、正答率は低く、無解答も3割を超える。

これまでの取組から

- 朝自習の時間に「読書タイム」を毎週1～2回設定して、読書の習慣が身につくようにし、語彙が増えるようにしている。
- 3学年以上で1人1冊の国語辞典を用意し、言語活動の下支えとなるように国語以外の教科においても使用できるようにしている。

今後の具体的な取組について

- 日頃の授業で自分の考えを友達と伝え合う場を意図的に設定するように努める。
- 問われている内容を読み取る力を育てるため、読書の機会や量を増やす。
- 字形に気がつけた、ていねいな漢字指導を継続して行っていく。



算数に関する調査結果

算数 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 2つの数の最小公倍数を求めることができる。
- 具体的な問題場面において、乗法で表すことができる2つの数量の関係を理解している。

《努力を要する所》

- 加法と乗法の混在した整数と小数の計算をすることが苦手である。
- 資料から、二次元表（2つの観点を縦と横の欄にまとめた表）の合計欄に入る数を求めることが苦手である。

算数 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 示された条件を基に、適切な式を立てることができる。
- 示された考えを解釈し、数を変更した場合も同じ関係が成り立つことを、図に表現することができる。

《努力を要する所》

- 資料やグラフを読み取ることに課題がある。
- 問題が複雑になると、正答率が下がったり、無解答が増えたりする。

これまでの取組から

- 学年や単元によって、TT（チームティーチング）や、少人数指導を行い、個々の学力に合わせて理解が進むようにしている。

今後の具体的な取組について

- 授業の中で、表やグラフ、資料に示された情報を読み取って問題を解く学習を増やす。
- 応用的問題にも意欲をもって取り組めるようにする。
- 文章問題の文意が理解できるように、他教科の学習や読書活動なども通して、理解する力や書く力を養っていく。



児童質問紙の結果より

学習について

数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の回答率を足したものです。

《よかった所》

学習習慣

学習することの価値に
気付いている

- 「学校で、好きな授業がある」91%
- 「宿題をしている」93%
- 「勉強は大切だと思う」
 - ・国語 85% ・算数 89%
- 「学習したことは、将来役に立つと思う」
 - ・国語 80% ・算数 82%
- 「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている」80%

《課題と思われる所》

- 「昼休みや放課後・休日などに本を読んだり借りたりするために、図書室や図書館にどれくらい行くか」
 - ・週に1回 0%
 - ・月に1～3回 11%
 - ・年に数回 33%
 - ・ほとんど または 全く行かない 56%
- 「国語の学習は好きである」44%
- 「算数の学習が好きである」57%
- 「算数の授業で学習したことを普段の生活で活用できるか考える」58%

生活について

《よかった所》

生活習慣

基本的な生活習慣が確立されている

- 「朝食を毎日食べている」91%

自分自身について

物事に一生懸命に取り組む
ことができる

- 「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。」98%
- 「将来の夢や目標を持っている。」91%

人との関わり

人との関わりを楽しみ、
大切にしている

- 「学校で友達に会うのが楽しい」100%
- 「いじめはどんな理由があってもいけない」96%
- 「人の役に立つ人間になりたい」89%
- 「友達との約束を守っている」98%

《課題と思われる所》

地域・社会

地域や社会のできごとに
関心が低い

- 「住んでいる地域の行事に参加している」49%
- 「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」58%
- 「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」25%

これまでの取組から

- 学校教育目標に則り、教職員相互の信頼と協力を基盤とし、全職員で気持ちを一つにして教育実践に努めている。
- 家庭や地域との連携・協力を大切に考え、ともに子どもたちを育てていく学校づくりに努めている。

今後の具体的な取組について

- 児童の豊かな心を育み、楽しく笑顔で学校生活が送れるよう、今後も学校全体で取り組む。「全職員が全担任」という意識を継続していく。心の教育、小中一貫教育、支援教育、ありまっ子応援団との連携・協力、家庭との連携・協力、地域環境の活用、異学年交流や他校種との交流等を推進する。
- 校内研究による授業研究に全職員で取り組み、授業改善につなげる。基礎的内容の定着を図るとともに指導法を工夫・改善して確かな学力の向上をめざす。
- 地域の教育力を生かした体験学習により児童の生きる力を培う。

ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい6つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ、始めてみてください。

1 「早寝、早起き、朝ごはん」を続けていきましょう。

基本的な生活習慣を身につけることは、学習面に良い影響を与えます。特に、学力と朝食の摂取との明らかな相関関係が認められています。栄養バランスのとれた朝食で、一日をスタートさせましょう。



2 テレビの時間を減らしましょう。

お子さんとよく話し合い、テレビを見る時間や約束を決めるなどして、時間を有効に使いましょう。また、日常生活の中で本を読むひと時を作ることに、文字に親しみ、思考力や想像力を伸ばしていきましょう。



3 家庭学習を継続し、さらに内容の充実した学習を積み重ねていきましょう。

学習内容の定着を図るためには、家庭における学習も必要です。基礎基本の力を身につけていけるように粘り強く取り組むための見守りや励ましを今後も続けていきましょう。



4 豊かな言葉や対話を大切にしましょう。

普段の生活の中で、お子さんとゆっくりと向き合い話ができるひと時をもちたいものです。学校であったことなど、耳を傾けてあげてください。豊かな言葉と温かい心を育みます。家庭における対話を大切にしましょう。



5 いじめは許されないという意識をさらに高めていきましょう。

どんな理由があってもいじめは絶対に許されないことや、その理由・困った時の適切な対処法などについて、ご家庭でも日頃から話し合っておきましょう。



6 ケータイ・スマホを使う上でのマナー・約束事等について、日頃から話し合っておきましょう。

子ども任せにしていると、メールやSNS等によって、気付かぬうちに思わぬトラブルに巻き込まれていたり、トラブルを振りまいてしまったりすることがあります。お子さんと一緒に使用する目的や制限事項などを考えて、適切に使えるように見守っていきましょう。



